

核反応生成物の ビームへの混入について

- 神原、NSREC(IEEE) 2018, July, Hawaii ポスター発表 DOI: 10.1109/NSREC.2018.8584278
- 吉田、IAEA Tech. meeting 2018, Dec., Wien

より抜粋(日本語版)

核反応による「ビーム不純物」

│84Kr 70MeV/u ビームの場合 (概要)



何処で核反応が起きているのか? を 判別したい



インプラント板中の残留 γ 線放出核種 を Ge検出器測定で同定 照射時間: ~10min γ線計測: 7min後~3ヶ月後迄 残留核種の Lifetime 分析も行い、 長寿命核種のみを同定した。



インプラント物質(標的核)の違い

観測された 残留 γ線放出核種 の 生成確率(アクリル vs Si) 代表的な核種 当たり アクリル: $(C_5 O_7 H_8)$ n Krビームより 重核 (37≦Z≦45) Krビームより 軽核 (Z≦36) / ドデーム16 10-3 Acrylic Si (84Kr) 10-4 Beam (生成確率 ⁵⁸Co ⁸⁶Y 98Rh ²⁴Na ⁴⁸V ⁵⁶Mn ⁶⁵Zn ⁶⁷Ga ⁶⁹Ge ⁷⁴As ⁷⁵Se ⁷⁵Br ⁷⁹Kr $^{82m}Rb^{83}Rb^{84}Rb^{84m}Rb^{84}Y^{86m}Y$ ⁸⁸Zr ⁹⁰Nb ⁹⁴Tc Ag Z: Kr =36 39 41 30 33 34 35 37 11 ! 23 25 27 31 32 37 37 37 39 39 40 43 45 47 -25 -13 -11-9 -3 -2 $Zbeam \pm 0$ +1 +1+1 +1 +3 +3+3+4 +5 🔪 +7 +9,1 +11Z: Kr+Si Z: Kr+C -2 ! Z: AI =13 +10+12= 42 = 50 Z: Si =14 -3 ! +9 +11アクリルは C核 が多い Krから 遠い 軽核 Kr近傍の重核では、同等~アクリルが多め 軽核では、Siとアクリルの差異は少ない Si 標的のみで観測 →標的核の _{Transfer} →上流の厚い AI 板等で生成された →上流で生成されたビーム核の 等? →Krビーム+Si標的の Fusion 等? Fragmentationと推定される Transfer や Fusion 等? Kr + Si 観測γ線核種 標的: Si 標的: Acrylic 45 45 h-3 10⁻³ (核図表で表示) 当たり Stable Stable 40 40 Primary Kr-84 Primary Kr-84 ★長寿命のγ線放出核種 Ð Ļ のみの測定なので、 10⁻⁴ -10^{-4} Ream Ki Beam Kr 35 35 核図表上の分布には、 Ζ 「歯抜け」があります。 111日の第一人では 30 30 10⁻⁵ 10⁻⁵ 25 25 49 核種が **61 核種が** 観測された 観測された ⊐10⁻⁶ 10-6 20 20 20 25 30 35 40 45 50 55 20 35 45 50 55 25 30 40 N N 理研・産業チーム・吉田 4 2019/5/15

PhiTsシミュレーション と比較



理研・産業チーム・吉田

PhiTs vs 測定値 同位体ごとに比較



理研・産業チーム・吉田

PhiTs vs 測定値 核図表で比較

EDeg = 586 µm (AI)の場合

核反応生成物(標的上流で生成+標的中で生成)の合計でプロット



PhiTs で EDeg厚さを変化させた計算



SHINA



PhiTs計算: ビーム束分布

Z EDeg= 600um 一番キタナイ条件



NÎŚĤĪŊĂ

PhiTs計算: ビーム束分布

EDeg= 850um LETmax付近

30

30

 $(MeV/[mg/cm^{2}])$

 α (Z>2)

12

19

38

³He



NÎSĤĪÑA

10^0

10^-3

10^-6

-10^-9

source]

10

10-2

10-3

10⁻⁴ 10⁻⁵ 10⁻⁷ 10⁻⁷ 10⁻⁷

10-8

10-1

10-2

10-3

10 10-6

Flux

核反応不純物:Krビーム PhiTs計算: Z-N, E, LET分布 EDeg= 10~600 μ m ゴミmax まで Si 表面 10 μ m 位置で



PhiTs計算: Z-N, E, LET分布 EDeg= 700~900µm LETmax まで

